

2024年3月

「高機能消防指令センター」を更新して本格始動

安芸高田市消防本部では、総工費3億4千万円をかけ高機能消防指令センターを更新。各種機能を強化し、「災害に強い」消防指令センターとして生まれ変わりました。

高機能消防指令センターとは？

最新鋭のコンピューターと通信機器を駆使して、119番通報等による出動要請などを受信。消防活動が終了するまでを迅速かつ的確に行うためのシステムです。



主な特徴

● 迅速な指令・出動

指令員1人で4画面を操作。情報は豊富にかつ指令操作をシンプルにすることで、災害地点の特定を、よりスピーディーに行えるよう改良されました。また、車両の出動状況を大型モニターで常時把握。災害場所から最も近い車両が自動で選択されます。



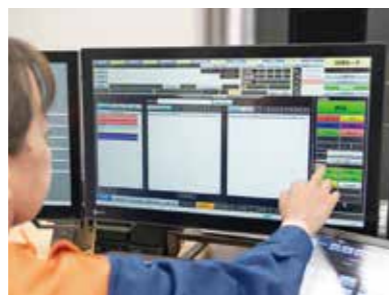
各種画面切り替えができ、作戦室のスクリーンにも表示可能。



タッチペンでの手書き入力は出動車両にも送信できる。

● Googleマップと連携

通報場所のストリートビューを表示させ、現場の特徴を確認することが可能になりました。



119番入電時には、同時に4事案の受け付けが可能。

● 駆け込み通報

消防本部と北部分駐所の正面玄関近くに、非常用電話「駆け込み通報装置」を設置しました。受話器を持ち上げるだけで、消防車や救急車を要請することができます。



緊急時の通報に備えた電話「駆け込み通報装置」。

大規模災害時への備えも充実

● 大規模災害時 作戦室整備

大規模災害が発生した際は、電話対応など全ての機能を集結。作戦用テーブルや映像機器を備え、災害発生場所の地図や消防ヘリコプターからの画像なども表示できます。

指令室と連携し、緊急度の高い現場の優先順位を決定するほか、部隊の増強や応援要請の可否等を判断します。

安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 📠47-1191



隠地山城遠望(北側より撮影)

安芸高田 歴史紀行



歴史民俗博物館 副館長 秋本 哲治

シリーズお城拝見 | 第89回

隠地山城跡 (向原町坂)

2020年12月号以来、久々に「お城拝見」の復活です！ 近年は毛利氏を中心とした歴史の概略を紹介してきましたが、再び現地調査を行い、新たに発見した城跡を報告します。里山にはまだまだ地域の歴史が眠っています！

坂の城跡

過去の県教委の調査により、向原町坂にはA日下津城とC久志城が確認されていました。その後は向原町で独自調査が行われ、その成果や本市の航空レーザ測量図を基に今回改めて現地調査を行った結果、新たに4か所を加えた6か所の城跡(下図)が確認できました。その内、DEFは地元の伝承がありましたが、今回のB隠地山城(仮称)は今回初めて確認したものです。

坂の領主

鎌倉末期に毛利氏が吉田荘に土着しましたが、中世の坂は吉田荘南半分の豊島郷内(当初は毛利氏領地外)にありました。1352年、当時南朝方であった毛利親衡が坂を占拠し、「坂城」(日下津城とされるが、詳細不明)にこもり侵攻した北朝方の武田氏を撃退したことが記録にあります。その後、親衡の子匡時が土着し、坂氏を名乗ります。坂氏は毛利氏の分家として本家の執権となるなど、後に元就に粛清されるまで大きな影響力を持ち、ここから志道氏や桂氏が生まれました。

隠地山城

坂南部の権現山山頂から北東の尾根上にあり、標高262m、麓からの比高は50m。現在は烏丸神社となっている平坦地が中心で、背後の尾根を寸断している2重の堀切が特徴です。坂地区6か所の城跡のうち、隠地山城は小規模といえます。Aから直線で650mと近距離にあり、同じ権現山山系であることから、Aと関係深い城であった可能性があります。

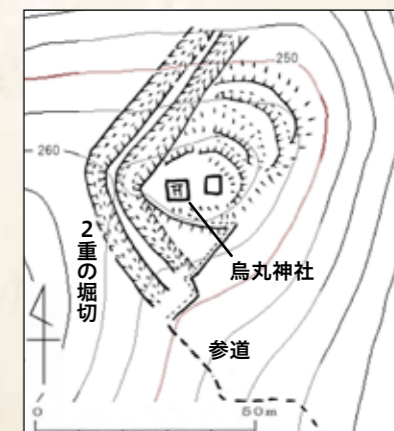
なお、烏丸神社は俗にカラス権現といい、江戸後期には権現山山頂にあり、1960年に現在地に移動されました。



城跡の中心に建つ烏丸神社



坂地区城跡位置図(地理院地図に加筆)



隠地山城図(秋本哲治作図)